

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 1 月 18 日 (2007.1.18)

【公開番号】特開 2006-73603 (P2006-73603A)
 【公開日】平成 18 年 3 月 16 日 (2006.3.16)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-011
 【出願番号】特願 2004-252127 (P2004-252127)
 【国際特許分類】

H 0 1 L 21/68 (2006.01)

H 0 1 L 21/677 (2006.01)

B 6 5 G 49/07 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 21/68 M

H 0 1 L 21/68 C

B 6 5 G 49/07 H

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 11 月 27 日 (2006.11.27)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

少なくとも表面に保護テープが貼り付けられたウエハを保持して回転させ、このウエハの外周部を赤外線を用いて非接触で検出してアライメントするウエハのアライメント方法。

【請求項 2】

上記ウエハの外周部を、赤外線照射手段と赤外線受光手段を用いて赤外線で検出する請求項 1 に記載のウエハのアライメント方法。

【請求項 3】

ウエハを非接触式ハンドにて吸着保持しながらアライメントを行う請求項 1 又は 2 に記載のウエハのアライメント方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 2】

上記ウエハの外周部を、赤外線照射手段と赤外線受光手段を用いて赤外線で検出するようにできる（例えば、赤外線発光素子と C C D カメラ、赤外線発光素子と赤外線受光素子の組み合わせ等）。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 6】

図 2 (b) は、上記赤外線照射ユニット 2 2 の他の例を示し、コ字状となるセンサーフレーム 2 7 の先端部上下に、赤外線発光素子 2 3 と赤外線受光素子 2 8 を対向するように配置したものであり、上述した赤外線発光素子 2 3 と C C D カメラ 2 4 の場合と同様に、ウエハ 1 の外周端部を非接触で正確に検出してアライメントすることができる。